



■テーマ名

文化冷戦の文脈におけるリベラリズムの思想的特質に関する研究

■キーワード

文化冷戦、リベラリズム、政治的リアリズム

■研究の概要

近年、政治理論の分野において、ジョン・ロールズの所説を中心とする「分析的政治哲学」に批判を加える「政治的リアリズム」の学説が注目されています。それは仮説的社会状態から特定の政治原理を道徳的に正当化するタイプの理論ではなく、現実の非-理想世界（市民が必ずしも常に合理的かつ理性的とはかぎらず、また諸価値の調和ではなく対立と両立困難が支配する世界）において人々が自由かつ平和裏に共存しうる諸条件を探究する規範的な議論です。本研究は、こうしたリアリズムの政治理論の有効性を、過去の実際の政治状況におけるリベラルたちの政治的行動や判断から検証することを試みます。この目的を達成するために、本研究は、冷戦期の現実政治に深く関与した三人の英米リベラル派知識人——アイザiah・バーリン、ジョージ・ケナン、アーサー・シュレジンジャー・ジュニア——の思想と行動、および彼らの周辺に構築された知的・人的ネットワークを対象とした研究をおこないます。その際、彼らの政治活動の主要なコンテキストとして「文化冷戦 (the Cultural Cold War)」に注目します（文化冷戦とは、冷戦期におけるさまざまな文化的プロパガンダ・プログラムを一般に指す言葉です）。こうした背景を踏まえ、本研究は、上記三人の知識人たちの知的・政治的戦略を解明し、リアリストとして知られる彼らがどのような意味でリベラルであったのか、また、彼らの活動が所与の状況の下でどのような政治的態度、選択、政策、そして思想を導いたのかを確認します。この作業を通じて本研究は、政治的リアリズムが示唆するところのリベラリズムの動態を——良くも悪くも、そのリアルな姿を——解明することを目指します。



■他の研究／技術との相違点

政治思想史分野の新領域開拓に加えて、本研究は冷戦研究における複数の研究領域間の協働を目指しています。主として国際関係論やカルチュラル・スタディーズの分野で扱われてきた文化冷戦の特質を多面的に理解するためには、この文化戦略の形成に寄与した同時代の思想潮流と思想家間の人的交流に関する知見が不可欠であると考えられます。

■今後の展開、実用化へのイメージ

冷戦という現代史の文脈におけるリベラリズムの現実態を解明することを通じて、本研究は、昨今のリベラリズム終焉論に対して現実的な応答をおこない、そこからリベラリズムの新局面を開拓することを目指しています。また、冷戦初期の日本をはじめとする東アジア地域における文化冷戦の内実を理解する際にも、本研究がその一助となることが期待されます。

■関連業績（特許・文献）

森 達也「アイザiah・バーリンと文化自由会議：冷戦期の「リベラルなエートス」をめぐって」、『神戸学院法学』第50巻3・4号、2022年、27-63頁。

森 達也『思想の政治学：アイザiah・バーリン研究』（早稲田大学出版部、2018年）

■研究者から一言

本研究は科研費基盤研究（C）採択課題です（24K04706）。新たな冷戦の状況が出現しつつある昨今の政治状況の中、山積する課題の解決に寄与できるような研究を目指してまいります。